

# 会報

# 京都マイコン研究会

第 86 号  
(通算103号)

1994年9月1日 発行  
発行人 園口佳昭

## トピックス or ニュース

### パソコンリテラシへ当会員が投稿

編集部 増田

パソコンリテラシ1994年8月号ハードウェア特集に河原氏が「電光表示盤駆動用データ変換器の製作」について掲載されました。

「パソコンリテラシ」では、各月のテーマを明確にするため毎月特集を企画し、会員から論文及び記事を募集しています。

- 1. 論文、2. 技術ノート、3. 製作体験、4. 解説、5. 展望、6. 評論

通信特集・パソコン認定試験特集・科学特集・ソフトウェア特集・教育特集（先生、社会人など）・ハードウェア特集・通信応用特集・趣味特集・窓（WINDOW）特集・経営管理特集などです。皆様も投稿して下さい。詳しくは会長まで

## 例会報告！

8月6日 (pm. 6:30)

大山崎ふるさとセンター

参加者氏名 園口、岩井、中辻、鍵田、中西洋、河原、松田、大塚、若井、増田、神守、溝口

12名

6:30 マイコンサロン

7:30 各部会に別の議論

Works部会とAccess部会の開講期待が大きい。

## 次回例会

日時 9月4日 (土) pm. 6:30

場所 大山崎ふるさとセンター

内容 各 部会報告 Works部会とAccess部会  
秋の合宿計画 いつ始まるか？

## 部会開催 予告

1994

### MS-DOS ビギナーズ 部会

第3回

部長 河原

● 9月27日 pm. 7:30~9:00 登録者：加藤・若林・小寺・松田・大塚・仁賀・安田

■ 場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063  
増田則雄マイコンルームにて

### Visual Basic 部会

第5回

部長 増田

● 9月12日 pm. 1:30~6:00 出席者：岩井・河原・中辻・松田・若井

■ 場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063  
増田則雄マイコンルームにて

MDI・コンボボックス・リストボックス

### DTP プロフェッショナル

第4回

部長 増田

● 9月5日 pm. 1:30~6:00 出席者：加藤・若林・溝口・上田・中辻・松田・仁賀・若井・武田

■ 場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063  
増田則雄マイコンルームにて

# MS-DOS ビギナーズ 部会 第3回

部長 河原

● 8月23日 pm. 7:30~9:00 出席者: ~~加藤・若林・小寺・松田・大塚・仁賀・安田~~

# Visual Basic 部会 第4回

部長 増田

● 8月21日 pm. 5:30~6:00 出席者: ~~若井・河原・中辻・松田・若井~~

MS-Visual Basic メソッド・関数・ステートメント 用語集 作製配布

宿題: 配布した役立つ用語集の中で誤りが数カ所ありますが、問題は、その誤りを指摘すること?  
(役立つ用語集にして下さい。)

# DTP プロフェッショナル 部会 第2回・第3回

部長 増田

● 8月7日 pm. 1:30~6:00 出席者: ~~加藤・若林・溝口・上田・中辻・松田・仁賀・若井・武田・河原~~

各自の名刺作製と機能及び操作説明

● 8月21日 pm. 1:00~5:30 出席者: ~~加藤・若林・溝口・上田・中辻・松田・仁賀・若井・武田・河原~~

ワープロとDTPとの機能・操作性の違い

## Microsoft Windows 3.1についての追加情報

Tomoppy

約一年前に発売された『Microsoft Windows 3.1』のDISKの『WIN\_INF.TXT』を呼んでいたら、数々の知らないことがあったので、(小生だけか。)ご参考になればと紹介をする。

この説明ファイルには、『Microsoft Windows 3.1 機能ガイド』やオンライン ヘルプで解説されていない重要な情報が記述されています。

目次 この文書には、次の項目についての追加情報があります。

- 1.0 MS-DOS以外のオペレーティングシステムによるWindowsの実行
- 2.0 スワップファイルの設定
- 3.0 Windows起動前の注意
- 3.1 SHELLコマンドの指定
- 3.2 COMSPEC環境変数の設定
- 4.0 レジューム機能の使用
- 5.0 モノクロLCDの使用
- 6.0 SMARTDrive 4.0の使い方
- 7.0 MS-DOSアプリケーションの実行
- 7.1 MS-DOS用日本語入力システムの設定
- 7.2 プロテクトのかかったアプリケーション
- 7.3 特別なテキスト着色を行うアプリケーション
- 7.4 ハイリゾリューション環境でのノーマルモードDOSプロンプトの実行
- 7.5 グラフィックを使用するアプリケーション
- 7.6 専用マウスドライバを使用するアプリケーション
- 7.7 ディスク最適化プログラム
- 7.8 MS-DOSプロンプト内での外字の利用
- 7.9 SEDIT、EYEへの文字の貼り付けについて
- 8.0 エンハンスドモードでのRS232Cの利用
- 9.0 マウスをWindows 3.1で使うときの注意
- 10.0 NEC サウンドボード(PC-9801-26K) MIDIを使うときの注意
- 11.0 MIDIボード(Roland MPU-401N、MPU-PC98 II)を実装しているときの注意
- 12.0 サウンド機能を実装しているときの注意
- 13.0 CD-ROMユニットを使用するときの注意
- 14.0 MSD(マイクロソフト診断プログラム)の実行
- 15.0 アプリケーション使用時の注意事項
- 16.0 その他

### 1.0 MS-DOS以外のオペレーティングシステムによるWindowsの実行

Microsoft WindowsとMS-DOSは1つの統合システムとして動作します。WindowsとMS-DOSは、さまざまな種類のコンピュータやハードウェア設定のもとでその設計とテストが同時に行われ、製品として出荷されています。MS-DOS以外のオペレーティングシステムでWindows 3.1を実行した場合、予期しない結果が生じたり、十分な性能が得られなかったりすることがあります。

### 2.0 スワップファイルの設定

コントロールパネルの[スワップファイルの設定]ダイアログボックスで、[BIOSを経由しないでスワップファイルを利用]チェックボックスを指定した場合は、常設スワップファイルを作成することはできません。

### 3.0 Windows起動前の注意

Windowsを起動する際には、SHELLコマンドとCOMSPEC環境変数の設定に注意してください。

### 3.1 SHELLコマンドの指定

CONFIG.SYSファイルでSHELLコマンドラインを指定する場合は、必ずシェル(コマンドプロセッサ)に

COMMAND.COMを指定してください。また、COMMAND.COMのパラメータにドライブとディレクトリを指定する場合は、コンピュータを起動したMS-DOSと同じバージョンのCOMMAND.COMのあるドライブとディレクトリを指定してください。

### 3.2 COMSPEC環境変数の設定

Windowsは、MS-DOSアプリケーションの実行時やファイルマネージャでフロッピーディスクにシステム転送を行った場合、環境変数COMMAND.COMの設定を参照します。COMSPEC環境変数には必ずコンピュータを起動したMS-DOSと同じバージョンのCOMMAND.COMを指定する必要があります。CONFIG.SYSファイルでSHELLコマンドラインが指定されていない場合は、MS-DOSが自動的にコンピュータを起動したドライブのCOMMAND.COMを設定します。

### 4.0 レジューム機能の使用

ノートパソコンのレジューム機能を使用する場合、Windows 3.0A/3.0Bではディスプレイドライバをセットアップで切り替える必要がありますが、Win3.1ではその必要はありません。通常の640x400ドット16色システムフォント(12ドット および16ドット)のディスプレイドライバが、自動的に対応します。

### 5.0 モノクロLCDの使用

モノクロLCDで表示する場合、コントロールパネルの色の配色を活用して、画面の配色を変えてみてください。ただしその場合でも、Windows 3.0A/3.0Bと同様に、一部のアプリケーションで特定の表示が見にくい場合があります。その場合はSYSTEM.INIファイルの[display]セクションに、次の行を追加してください。

### MonoDisplay=yes

ただし、この行の記述は16色のディスプレイドライバのみで有効です。また、大文字/小文字も正確に半角で記述する必要があります。

### 6.0 SMARTDrive 4.0の使い方

SCSIハードディスクインターフェースの種類によっては、SMARTDRV.EXEを組み込んでいるとWindowsが起動しない場合があります。このような場合は、SMARTDrive 4.0の使用を中止しMS-DOS 5.0以降に添付のSMARTDrive 3.0を使用するか、またはハードディスクインターフェースの販売元にお問い合わせください。SMARTDRV.EXE起動時に/Lオプションを付加してUMBにロードさせないことによって問題を回避できる場合もあります。また、サードパーティ製のインターフェースボードを使いWindowsが起動しない場合も、SMARTDriveを外してください。

### 7.0 MS-DOSアプリケーションの実行

この節では、特定のMS-DOSアプリケーションの実行や、DOSプロンプト内での日本語入力システムについて説明します。

### 7.1 MS-DOS用日本語入力システムの設定

\* MS-DOS 3.30以降のバージョンでは、MSKANJI.EXEとMS-DOS添付のNECAIK1.DRV、NECAIK2.DRVの組み合わせで日本語入力を行うことができます。  
\* MS-DOS 3.30以前(3.30を含む)のバージョンのMS-DOS添付のFEPEI、MSKANJI.EXEとの組み合わせで日本語入力を行うことができません。その場合、IMEかな漢字プログラムを使用することを推奨します。  
\* MS-DOSプロンプト内で日本語入力システムなどをADDDRVコマンドを用いて使用する場合は、プログラムによっては、正常に設定できない場合があります。このような場合は、Windowsを起動する以前にプログラムを組み込んでください。

### 7.2 プロテクトのかかったアプリケーション

MS-DOSプロンプト内では、プログラムディスクやハードディスクにプロテクト情報を持つアプリケーションは、実行できない場合がありますのでご注意ください。このような現象は、そのプログラムが行うプロテクトチェックの際、特別なアクセスタイミングを図ったり、ディスク上に作られた不良セクタをチェックする際に発生します。

### 7.3 特別なテキスト着色を行うアプリケーション

拡張アトリビュート等の特別な処理を行い、テキストに着色を行うMS-DOSアプリケーションを、ウィンドウ内表示の状態で使用すると、テキストの色が正常に表示されない場合があります。このような場合は、PIFエディタを用いて、問題の発生したアプリケーションを、フルスクリーン表示するように設定を変更してください。

### 7.4 ハイレゾリューション環境でのノーマルモードDOSプロンプトの実行

Microsoft Windows 3.1を、H98シリーズ上でハイレゾ設定で使用する場合、ノーマルモード設定されたMS-DOSプロンプト内で、ノーマルモード用のアプリケーションや、日本語入カシステムが正常に実行されない場合があります。このような場合は、Windowsをノーマルモードで実行するか、またはMS-DOSプロンプトをフルスクリーン表示に設定することで実行できる場合があります。

### 7.5 グラフィックを使用するアプリケーション

グラフィックを使用するアプリケーションをウィンドウ内表示のMS-DOSプロンプト内で実行する場合、起動時にフルスクリーンでの使用を促すメッセージが表示され、アプリケーションの動作が一時中断される場合があります。このような場合は、MS-DOSプロンプトをフルスクリーン表示に切り替えてご使用ください。ウィンドウ内実行のMS-DOSボックス内でグラフィックアプリケーションを使用できるのは、PC-H98シリーズのN/H98環境時PIFエディタの[詳細設定]の画面表示の設定で「ウィンドウ内表示時グラフを使用」を選んだ時のみです。

### 7.6 専用マウスドライバを使用するアプリケーション

MS-DOSプロンプト内で専用マウスドライバを必要とするアプリケーションを実行する場合、専用マウスドライバがMS-DOSプロンプトに未対応である場合があります。このような場合、アプリケーション自体が起動できない場合や、アプリケーション内で一部の操作が制限される場合がありますのでご注意ください。

### 7.7 ディスク最適化プログラム

MS-DOSプロンプト内でのディスク最適化プログラムの実行は、Windowsシステムの実行を中断させる場合がありますので、MS-DOSプロンプト内では実行しないようご注意ください。

### 7.8 MS-DOSプロンプト内での外字の利用

MS-DOSプロンプトで外字をリアルタイムで書き換えるプログラムを常駐させていると一部外字が倒れます。これはWindows起動前の常駐プログラムは全てのMS-DOSプロンプトに反映されますが、MS-DOSプロンプト上で登録された外字のデータは該当するMS-DOSプロンプト内でのみ有効となるためです。

### 7.9 SEDIT.EXEへの文字の貼り付けについて

Windowsアプリケーションから、MS-DOS 5.0/5.0A/5.0A-H添付のSEDIT.EXEヘデータの切り取りと貼り付けを実行すると、最初の1行のみしか貼り付けられません。このような場合、貼り付けたいテキストをいったん、TXTファイルとして保存してSEDIT.EXEに読み込んでください。

### 8.0 エンハンスドモードでのRS-232Cの利用

エンハンスドモードでRS-232Cの通信を行う場合、次の設定をSYSTEM.INIファイルの[386Enh]セクションに記述することで、通信の性能を向上させることができます。イメージスキャ使用中に通信エラーが発生した場合も、本設定を行ってください。

```
VCPDFicRotate = True
COM1Delay = xxxx
COM1Buffer = xxxx
COM2Delay = xxxx
COM2Buffer = xxxx
COM3Delay = xxxx
COM3Buffer = xxxx
```

※ xxxxには1~10000の任意の値を設定してください。ただし、本設定はRS-232Cにのみ有効です。また、MS-DOSアプリケーションでRS-232Cの通信の性能が低い場合PIFファイルの「他のプログラムを止めて実行」のオプションを有効にしてください。ただしこのときは、バックグラウンドでの通信はできません。

注意：DOSプロンプトのRS-232C環境は、H/W割込みを利用した一般的な調歩同期による通信のみをサポートしています。そのためRS-232Cインターフェイスを利用するアプリケーションによってはDOSプロンプトでは正常に動作できない場合があります。そのような場合、Windows 3.1での使用を中止するか、アプリケーションの開発元に御相談ください。

### 9.0 マウスをWindows 3.1で使うときの注意

\* Windows 3.1に含まれているMOUSE.COMは、マイクロソフトマウスAPIをサポートしております。マイクロソフトマウスAPIに対応しているアプリケーションは、MS-DOSプロンプトのウィンドウ内表示時にもマウスの使用が可能となります。

(マイクロソフトマウスAPIに対応しているアプリケーションの例)

Microsoft Works Version 2.1以降	Microsoft C Version 2.0以降
Microsoft Multiplan Version 3.1以降	Microsoft Macro Assembler Version 6.0以降
Microsoft Chart Version 3.1以降	Microsoft FORTRAN Version 5.1以降
Microsoft Quick BASIC Version 4.2以降	Microsoft BASIC Version 7.1以降
Microsoft Quick C Version 2.0以降	Microsoft Visual BASIC for MS-DOS Version 1.0以降
	MS-DOS Version 5.0添付のDOSシェル

Windows 3.1には、NECMSAPI.COMというプログラムが含まれています。このプログラムは、NEC製マウスドライバを必要とするアプリケーションにおいて、本製品に添付されているマウスドライバの機能を利用できるようにするプログラムです。本サポートプログラムが使用できるアプリケーションは、NEC製マウスドライバ、またはMS-DOSに付属の標準マウスドライバ(及び相当品)を使用するように指定されているアプリケーションです。

- 本サポートプログラムの使用方法は、以下の通りです。
- 1) Windows 3.1に添付されているMS-DOS上のマウスドライバ(MOUSE.COM)をロードします。
  - 2) MS-DOSのコマンドラインから、「NECMSAPI」と入力し、リターンキーを押します。(このときNECMSAPI.COMが実行可能なパス上に存在するものとします。)この操作により、本サポートプログラムがメモリ中にロードされ、マウスドライバはマイクロソフトのマウスドライバではなく、NEC製マウスドライバとして機能するようになります。
  - 3) NEC製マウスドライバを必要とするアプリケーションを起動して、使用します。
  - 4) アプリケーションを使用し終了後、再びMS-DOSのコマンドラインから「NECMSAPI」と入力することにより、本サポートプログラムはメモリ中から除去され、マウスドライバは元通りのマイクロソフトのマウスドライバとして機能するようになります。
- アプリケーションによっては、本サポートプログラムを用いても正常にマウスが使用できない場合があります。
- \* フルスクリーン表示のMS-DOSプロンプトでNEC MS-DOS 5.0添付のマウスドライバをメモリに常駐させるとウィンドウ表示MS-DOSプロンプトに移行できなくなります。
  - \* その他のマウスドライバ使用アプリケーション
- MS-DOS添付以外のマウスドライバを使用しているアプリケーションの場合、WindowsのMS-DOSプロンプトでマウスドライバをメモリに常駐させた後、アプリケーションを起動してください。ただし、この場合ウィンドウ表示MS-DOSプロンプト内でマウスを使用することはできません。

### 10.0 NEC サウンドボード(PC-9801-26K) MIDIを使うときの注意

NEC サウンドボード(PC-9801-26K) MIDIを選択した場合、メディアプレーヤーのMIDIで利用可能です

が、コントロールパネルから「サウンド」を起動してもWAVEサウンド(拡張子.WAV)は全て淡色表示されて使用できません。(メディアプレーヤーなどのアプリケーションによるWAVEサウンドの再生/録音もできません。)また、FM音源ボード(PC-9801-26K)では3音までの同時再生が可能です。

### 11.0 MIDIボード(Roland MPC-401N, MPU-PC98 II)を実装しているときの注意

MIDIボードを実装しているときは、コントロールパネルのドライバでMIDIドライバの追加を行い、割り込みが他の割り込みと重ならない様に設定してください。MIDIボードの割り込みおよびI/Oポートの設定については、ボードのマニュアルを参照してください。

### 12.0 サウンド機能を実装しているときの注意

サウンド機能を実装しているコンピュータでEMM386.EXEを使用しない場合、EMSを使用できない場合があります。この場合、サウンドROMBIOSを切り離す設定にするか、SYSTEM.INIの[386Enh]セクションにつきの設定を追加してください。  
[386Enh]  
Emminclude=cc00-cfff  
サウンドROMBIOSを切り離す方法はサウンドのマニュアルか、サウンドを標準実装しているコンピュータではコンピュータ本体のマニュアルをご参照ください。

### 13.0 CD-ROMユニットを使用するときの注意

CD-ROMユニットを使うには、Windowsに添付されているCD-ROM Extensionsをご利用ください。

### 14.0 MSD (マイクロソフト診断プログラム)の実行

MSDを実行するには、メインメモリが400KB以上必要です。メモリ不足などの原因で正常に動作しない場合は、コマンドラインから次のようなオプションを指定して実行してください。この場合、画面にはシステムの情報は表示されず、ログファイルのみが作成されます。  
MSD /P MSD.LOG

### 15.0 アプリケーション使用時の注意事項

- \* MS-DOSプロンプトでMOUSEドライバを使用した後でウィンドウ内表示を行うと、実行が停止する場合があります。停止した場合は、MS-DOSプロンプトを一旦終了させてください。
  - \* 本製品では、以下のMS-DOSアプリケーションについて、Windows上のアイコンに自動登録できる機能を持っています。
- |                       |          |           |          |
|-----------------------|----------|-----------|----------|
| アプリケーション名             | (注)対応OS  | アプリケーション名 | (注)対応OS  |
| ・ASTORIC              | (MS-DOS) | ・EAT      | (MS-DOS) |
| ・ASTORIC2             | (MS-DOS) | ・EAT2     | (MS-DOS) |
| ・ASTORIC3             | (MS-DOS) | ・EAT3     | (MS-DOS) |
| ・EAT (EAT)            | (MS-DOS) | ・EAT4     | (MS-DOS) |
| ・FaxPre-DOS.xx/DOS.xx | (イーストマン) | ・EAT5     | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE               | (MS-DOS) | ・EAT6     | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE2              | (MS-DOS) | ・EAT7     | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE3              | (MS-DOS) | ・EAT8     | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE4              | (MS-DOS) | ・EAT9     | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE5              | (MS-DOS) | ・EAT10    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE6              | (MS-DOS) | ・EAT11    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE7              | (MS-DOS) | ・EAT12    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE8              | (MS-DOS) | ・EAT13    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE9              | (MS-DOS) | ・EAT14    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE10             | (MS-DOS) | ・EAT15    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE11             | (MS-DOS) | ・EAT16    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE12             | (MS-DOS) | ・EAT17    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE13             | (MS-DOS) | ・EAT18    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE14             | (MS-DOS) | ・EAT19    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE15             | (MS-DOS) | ・EAT20    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE16             | (MS-DOS) | ・EAT21    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE17             | (MS-DOS) | ・EAT22    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE18             | (MS-DOS) | ・EAT23    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE19             | (MS-DOS) | ・EAT24    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE20             | (MS-DOS) | ・EAT25    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE21             | (MS-DOS) | ・EAT26    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE22             | (MS-DOS) | ・EAT27    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE23             | (MS-DOS) | ・EAT28    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE24             | (MS-DOS) | ・EAT29    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE25             | (MS-DOS) | ・EAT30    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE26             | (MS-DOS) | ・EAT31    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE27             | (MS-DOS) | ・EAT32    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE28             | (MS-DOS) | ・EAT33    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE29             | (MS-DOS) | ・EAT34    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE30             | (MS-DOS) | ・EAT35    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE31             | (MS-DOS) | ・EAT36    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE32             | (MS-DOS) | ・EAT37    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE33             | (MS-DOS) | ・EAT38    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE34             | (MS-DOS) | ・EAT39    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE35             | (MS-DOS) | ・EAT40    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE36             | (MS-DOS) | ・EAT41    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE37             | (MS-DOS) | ・EAT42    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE38             | (MS-DOS) | ・EAT43    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE39             | (MS-DOS) | ・EAT44    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE40             | (MS-DOS) | ・EAT45    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE41             | (MS-DOS) | ・EAT46    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE42             | (MS-DOS) | ・EAT47    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE43             | (MS-DOS) | ・EAT48    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE44             | (MS-DOS) | ・EAT49    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE45             | (MS-DOS) | ・EAT50    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE46             | (MS-DOS) | ・EAT51    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE47             | (MS-DOS) | ・EAT52    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE48             | (MS-DOS) | ・EAT53    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE49             | (MS-DOS) | ・EAT54    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE50             | (MS-DOS) | ・EAT55    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE51             | (MS-DOS) | ・EAT56    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE52             | (MS-DOS) | ・EAT57    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE53             | (MS-DOS) | ・EAT58    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE54             | (MS-DOS) | ・EAT59    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE55             | (MS-DOS) | ・EAT60    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE56             | (MS-DOS) | ・EAT61    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE57             | (MS-DOS) | ・EAT62    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE58             | (MS-DOS) | ・EAT63    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE59             | (MS-DOS) | ・EAT64    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE60             | (MS-DOS) | ・EAT65    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE61             | (MS-DOS) | ・EAT66    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE62             | (MS-DOS) | ・EAT67    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE63             | (MS-DOS) | ・EAT68    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE64             | (MS-DOS) | ・EAT69    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE65             | (MS-DOS) | ・EAT70    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE66             | (MS-DOS) | ・EAT71    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE67             | (MS-DOS) | ・EAT72    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE68             | (MS-DOS) | ・EAT73    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE69             | (MS-DOS) | ・EAT74    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE70             | (MS-DOS) | ・EAT75    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE71             | (MS-DOS) | ・EAT76    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE72             | (MS-DOS) | ・EAT77    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE73             | (MS-DOS) | ・EAT78    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE74             | (MS-DOS) | ・EAT79    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE75             | (MS-DOS) | ・EAT80    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE76             | (MS-DOS) | ・EAT81    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE77             | (MS-DOS) | ・EAT82    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE78             | (MS-DOS) | ・EAT83    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE79             | (MS-DOS) | ・EAT84    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE80             | (MS-DOS) | ・EAT85    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE81             | (MS-DOS) | ・EAT86    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE82             | (MS-DOS) | ・EAT87    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE83             | (MS-DOS) | ・EAT88    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE84             | (MS-DOS) | ・EAT89    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE85             | (MS-DOS) | ・EAT90    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE86             | (MS-DOS) | ・EAT91    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE87             | (MS-DOS) | ・EAT92    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE88             | (MS-DOS) | ・EAT93    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE89             | (MS-DOS) | ・EAT94    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE90             | (MS-DOS) | ・EAT95    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE91             | (MS-DOS) | ・EAT96    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE92             | (MS-DOS) | ・EAT97    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE93             | (MS-DOS) | ・EAT98    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE94             | (MS-DOS) | ・EAT99    | (MS-DOS) |
| ・FAXPRE95             | (MS-DOS) | ・EAT100   | (MS-DOS) |
- \* 一部Ver5がメモリ不足で起動しない場合は、**EMM386**を**EMM386A**に変更してください。通常はメガバイト以上必要です。スワップファイルの設定はコントロールパネルの[エンハンスドモードの設定]で行ってください。
  - \* PCA会計がメモリ不足で起動しない場合、CONFIG.SYSから不要なデバイスドライバを削除するか、AUTOEXEC.BATからSMARTDRVの設定を削除するなどして、メインメモリを約450キロバイト以上確保してください。また、AUTOEXEC.BATからWindowsを起動する設定になっている場合、Windows上からPCA会計を起動することはできません。
  - \* Windows上でのMS-DOSアプリケーションの実行時、次の日本語かな漢字変換はご使用になれません。
    - ・VJE-B Ver1.20
    - ・EGBridge
  - \* ご使用になるMS-DOSアプリケーションがアイコンに登録されない場合、MS-DOSアプリケーションに添付されている日本語かな漢字変換のファイルを、アプリケーションのマニュアルに従ってコピーしてください。なお、日本語かな漢字変換のファイルをコピーする際、CONFIG.SYSファイルは編集しないでください。
  - \* 自動登録したMS-DOSアプリケーションで使用する日本語かな漢字変換を変更する場合は、登録したアプリケーションのデバイス定義ファイルの内容を、正しい日本語かな漢字変換用書き換えてください。登録したアプリケーションのデバイス定義ファイルの名前は、以下の手順で調べることができます。
    1. 登録したアイコンを選択します。(選択されたアイコンは、タイトルの色が他のアイコンと変わるので区別できます。)
    2. プログラムマネージャのメニューで、「F1(F)」を選択します。
    3. 更にメニューが開かれるので、その中から「登録内容の変更(P)」を選択します。
    4. プログラムの登録情報の中に「MID (MID)」という項目がありますので、内容を忘れないうちに、  
「A:\PIFDAT\XXXXX.PIF」といった様な内容が記述されています。
  - 5. 「F1(F)」というボタンが表示されていますので、それを選択して、通常のプログラムマネージャの画面に戻ってください。
  - 6. 「メイングループにあるPIFファイル」を起動し、4. でメモした名前ファイルを読み込んでください。(PIFエディタの使用法につきましてはマニュアルをご参照ください)
  - 7. ファイルを正しく読み込めば、PIFの内容が表示されますので、「F1(F)のファイル名(P)」という項目に表示されている内容を忘れないうちに、メモをとってください。これが、アプリケーションの起動パッチファイルの名前です。  
「A:\PIFDAT\XXXXX.BAT」といった内容が表示されています。
  - 8. PIFエディタを終了します。なお、途中でのなにか入力していると、PIFエディタを終了の際、「現在のの変更内容を保存しますか」と尋ねられますが、「いいえ(N)」を選択してください。
  - 9. 「アクセサリ」グループにあるメモ帳を起動し、7. でメモした名前ファイルを読み込んでください。(メモ帳の使用法につきましてはマニュアルをご参照ください)
  - 10. ファイルを正しく読み込めば、アプリケーションの起動パッチファイルの内容が表示されますので、「ADDREV」で始まる行の後の記述を忘れないうちに、メモしてください。これが、日本語かな漢字変換のドライバ組み込むためのデバイス定義ファイルの名前になります。  
「A:\PIFDAT\XXXXX.DEV」といった様な内容が記述されています。
11. メモ帳を終了します。なお、途中でのなにか入力していると、メモ帳を終了の際、内容を保存するかど

\* 自動登録機能で登録したMS-DOSのアプリケーションのアイコンをダブルクリックしてもメモリ不足で起動できない場合は、CONFIG.SYSファイルから不要なデバイスドライバ等を削除してください。16.0 その他

コンピュータの電源を切るときは、必ず STOP キーを押してから電源を切ってください。  
\*\*\*\*\*

# 連載 「パソコンとMS-DOS 初心者入門」 第3回 (Tomopy)

今回は、「内部コマンド」について解説をする。その前に前回の記事にも関連することであるが、日本IBM社の製品にDOSやMS-Windowsが、プレインストールされて販売されている。その製品をユーザが、買った直後にHDD装置をフォーマットしてしまうケースが増加して困っているとの日本IBM社の担当の発言があった。その動機を調査中との動画を雑誌のCD-ROM盤を見た。ユーザの皆さん、どうしてこんな操作をするのでしょうか。やはり、マニュアルを十分に読む必要がある。メーカーマニュアルの構成にもっと工夫をして欲しいものだ。

元に戻って「内部コマンド」の種類と用途事例を日電MS-DOS 5.0Aの「ユーザズマニュアル」を参考にして、次に解説する。

コマンド名	記述事例	用途			
BREAK	BREAK BREAK ON BREAK OFF	現在の設定状況を画面に表示する。 [CTRL]キーと[C]キーか、STOPキーの何れかを押しと70ピピやハードディスクへ読み書きすることを中止する。 [CTRL]キーと[C]キーか、STOPキーの何れかを押しとリセット(キーボードなどを指す) 入出力、アプリが印刷している状態の時にアプリの動作を中断できる。 BREAKコマンドは、CONFIG.SYSに記述されているのを見かけるでしょう。あまり、利用しないコマンドである。	MD MD n:ABC MD n:YABC		画面には一つだけの実行ファイルが見えるだけである。このときに、前の画面へ戻るのに、実行ファイルを終了して、さらに、「EXIT」と入力する。
CHDIR またはCD	CD n:ABC CD .. CD Y	指定したn:ドライブ名のサブディレクトリ名へカギを変更する。 現在カギより上位の階層カギへ移動する。 現在カギより最上位のカギへ移動する。	PATH PATH n:YABC PATH n:YABCDEF		カギ(現在の)ディレクトリの下位にABC名のサブディレクトリがn:ドライブに作られる。 最上位ディレクトリの下位にABC名のサブディレクトリがn:ドライブに作られる。 画面からn:YABCのディレクトリに存在する実行ファイルをキーで入力して「ファイルが無い」と云われたときに、初めにキー入力して置くと、ファイル名をキー入力するとミスに実行する。要するに、路地の奥までコマンドが届くようになる。 慣用語として「PATHを通じたか」と云われる。大半の使用方法は、BATCHファイルに記述する。
CLS	CLS	画面の文字をすべて消す。			
COPY	COPY n1:XXX.XXX n2: COPY n1:XXX.XXX n2: /V COPY n1:*.* YYY n2: COPY n1:ZZZ.ZZZ CON COPY n1:XXX.XXX PRN COPY XXX.XXX +YYY.YYY ZZZ.ZZZ	n1:ドライブにあるXXX.XXXのファイルをn2:ドライブへコピーする。 /V 上と同じで、/V のオプションはコピーした内容が正確にコピーされたか検査する。 n1:ドライブにあるYYY拡張子のファイルをn2:ドライブへすべてコピーする。例えば、実行ファイルのみをコピーするとき、*.EXE とすればよい。 オプション CON は、n1:ドライブにあるXXX.XXXのファイルをプリンタへ表示する。テキストファイル以外は、読めない文字を表示する。 オプション PRN は、n1:ドライブにあるXXX.XXXのファイルをプリンタへ出力する。但し、拡張子が EXE.COM を指定すると印刷用紙が何枚あっても足りなくなる 二つのファイルを一つのファイルに連結する。	PROMPT PROMPT \$G:.... PROMPT \$n\$P\$g PROMPT \$v		BATCHファイルの中に記述して使われている。このオプションは、個人の好みで記述されている。 オプションの種類と使用法はマニュアルを見て下さい。記述例を画面から入力して、プロンプトを見て下さい。変化している? プロンプトに色も着けられる。
CTTY	CTTY AUX CTTY CON	通信ポート(RS232C)を通じて、本来、PRINTERへ出る文字が送り出される。 プリンタに電源を入れたときがこの状態。もし、オプション AUXコマンドで使用したら、オプション CONコマンドで戻す。	REN REN xxx.xxx ABC.xxx		ファイル名を変更するときに使う。
DATE	DATE DATE DATA yy-mm-dd	日付を表示。 日付を設定する。	RD RD n:ABC RD n:YDEF		ディレクトリを削除する。但し、予め、ディレクトリの中のファイルのすべてを「DEL」で消して置く。
DEL	DEL n:xxx.xxx DEL YYY.YYY /P DEL n:Y /P	指定したドライブ名のxxxファイルもドライブファイルの中から削除する。 オプション/Pを必ず付ける習慣を身に付ける。不慮の災難を防げる。 n:ドライブのサブディレクトリに存在するすべてのファイルを消す	SET SET YY=A:YDOSYEDLIN		キーから入力すると現在の環境を確認できる。 ファイル名 EDLIN を実行するとき、コマンドをバッチしておけば、実行したいファイル名を短縮名で実行できるこのコマンドは一般的にBATCHファイルに書いて実行される
DIR	DIR n:/W DIR n:/P DIR n:/A DIR n:/O DIR n:/S DIR n:/B DIR n:/L	n:ドライブ名はユーザに希望でお好きなように、オプションは、ファイル名のみ画面へ横へ並べて表示。一画面分表示すると一時的に表示を停止する。 何かキーを押すと次を表示。 隠しファイルなどが見える。 ファイルをアルファベット順に表示する。 サブディレクトリを含めて表示する。 ファイル名を一行づつ表示する。 すべて英小文字で表示する。 ★ 説明したオプションは、Ver.3.3以下では動かないオプションがあるかも知れない。試して下さい。	TIME TIME hh:mm:ss TYPE TYPE ABCD.TXT TYPE WXYZ.DOC		画面からキー入力して実行して確認して下さい。 オプションは時刻変更を使う。 ファイルの内容を画面で読みたいときに使う。但し、ファイル容量が大きい場合、内容はすぐにスクロールするので、[CTRL]+Sキー上手に操作して使わなければならない。拡張子EXEやCOMファイルを試したい方はどうぞ。
EXIT		画面から「COMMAND」とキーを入力して下さい。画面が、クリアされて前の画面と同じようになり、この状態で実行ファイルを起動することが出来る。即ち、複数のプロンプトを同時に常駐できる。但し、画	VER VER VERIFY VERIFY ON VERIFY OFF VOL VOL n:		MS-DOSのバージョンを表示する。画面からキー入力して試して下さい。 オプションを付けて画面からキー入力して置くと、COPYコマンドを使用したとき、移動した先のファイルの内容を検査して、異常があれば画面に表示する。 OFFをキー入力して置くと、検査機能を止める。 キー入力すると、ハードディスク、70ピピのボリューム名を表示する。ディスクをフォーマットするときに指示して書いて置かないと何も現れないし、使用済みのディスクのときは、古い名前が現れる。

内部コマンドに関する種類と使用の一例を説明した。皆さんは、幾つくらい使われたでしょうか。すべてを使う機会は多くないので、必要ときにマニュアルで操作法を習得する。もし、日常的に使われているとすれば、プロフェッショナルを職業にしている方であろう。今日、内部コマンドをわざわざ使わずに、ファイルユーティリティを使うことが多い。但し、BATCHファイルに記述するコマンドは使う目的を理解しておくべきであろう。ご質問のある方は、この紙面を持参の上、「DOSピギナーズ」分科会へ参加する。  
次回から、数回に分けて外部コマンドを解説する。

## プロフィール

NO. 11

かぎ た やす ゆき  
鍵 田 靖 之

私とマイコンの出会い、シャープのMZ-80Kからで当時は組み立てキット（キーボードとディスプレイの部分）として発売され夜遅くまでかかって組み立てたのが出会いです。そして、BASICをチョッピリかじって2~3年位でお蔵入りしてしまいました。

マイコンクラブとの出会いは、高校時代に同じ無線部であった岩井君と、無線部の同窓会で出会って話をしているうちに「わしマイコンクラブに入らんねん。」というところから京都マイコンクラブの存在を知るに至りましたが、まだ入会するところまでは至りませんでした。

その頃、私の仕事は電々公社の電話交換機の建設工事を携わっていました。クロスバー交換機の全盛時代から電子交換機へと移行する時期でもあり、否応なしにコンピュータと付き合いされるようになってきました。技術の進歩なんて一度転がり始めると段々と加速が付くもので、クロスバー交換機などは、一度覚えると10~15年位はそれで飯が喰えたのに、電子交換機になると1~3年位、関連付属装置になると半年位ごとに変わるのが今日この頃です。周りの環境がもう一度私とパソコンを結び付けるようになりました。

ある日突然、大奮発してPC-9801VX2を買ってしまいました。

VX2を購入した当時は、一人コツコツとパソコンとニラメッコしていましたが、なに甘わからないことだらけで、余程やめようかなと思ったが大金を



出して買ったのに、まだローンが終わってないと思い留まり「とりあえずゲームでもやりながら、ついでにワープロと表計算位はできなくちゃ」と、自責の念にかられている時、ふと岩井君の言葉を思い出しマイコンクラブの存在が身近に感じるようになりました。そしてある日、体験入学のつもりで例会に参加したのがそのまま居座ってしまいました。落ちこぼれを恥とせずマイペースで歩いて行きたいと思いますのでよろしくお願ひします。

以前専門部会でやったdBASEIII PLUSは今になってやっとプログラムが組めるようになり仕事の方面で大変役にたっています。

パソコン通信の方は時々利用する程度です。

全く関係ありませんが、趣味のヨット歴は30年、毎週土、日、はヨットで時間を浪費しています。

パソコンとヨットが時間の取り合いをやっています。どっちもしたら良いのでしょうか？

# デスクトップパブリッシング プロフェッショナル 部会情報

## 活字三題

増田則雄

思いや、出来事、相手に伝えたいこと、後世に書き残したいこと、そして愛・相・会・逢・哀・挨・藍・噶と言ふように活字はその内容まで表現出来るのです。

来号からシリーズでこの活字三題を連載いたします。

ここから始まった人と人のつながりなのです。

## 明朝体

むかし中国では甲骨・金石に文字を彫刻した。その記録から印象物を得たい時は拓本をとった。ついで複製を同的にして文字を凸刻した。印刷のはじまりである。

その技術史の中でも、明朝体が、なぜ縦線が太く、横線が細いのか、あるいは右端にウロコがついているのはなぜか、それらは明らかにされていない。

明朝体を中国では宋朝体と呼ぶ。

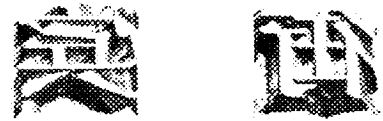
宋時代に誕生した印刷書体が、五百年ほど経て、明王朝の時代にわが国にもたらされた。

いま、なぜ「明朝体」を集めるのか

明時代から今日まで、文字情報の視覚伝達は、明朝体の役割であった。そして今後その主役は明朝体であろう、と考えるからである。その明朝体のいろいろな切り口をご覧に供することにした。

## 文字サイズ

活字には活字の表現手法があり、写植・タイプやコンピュータなどにも各呼び方がそれぞれにあり難解な問題を解説。



## タイポグラフィ

ここ、二十年前までは明朝とゴシックそして楷書の行き交う活字の世界でした。

メディアが発達すると共に、カラーとビジュアル化が進み活字にも影響を及ぼしたそのタイポグラフィとは？

伝えるから始まり、一文字だけ何を伝えようとしているかが伺える。

そして現在は文字の書体により見るだけで直感的に内容やイメージをつたえる。

## マイコン??? ウルトラクイズに挑戦!

京都マイコンクラブの歴史をたどる。研究活動についてどうだろう? 物足りない・不満・不良

QUESTION 各枠内に○×を記入。選択肢では○で囲んで下さい。(次回例会に必ず持参下さい。)

- 1・窒素は、吸うと窒息するところから、窒素という。
- 2・総理大臣は首相官邸に住まなければならない。
- 3・ソ連の勢力圏を「鉄のカーテン」というように、中国の勢力圏は「竹のカーテン」という。
- 4・ジェットコースターは、試作の段階で本当にジェットエンジンを積んだことがある。
- 5・京都マイコンクラブのdos部会長、河原氏の入会日は昭和60年2月である。
- 6・京都マイコンクラブの発足は1981年6月1日である。
- 7・京都マイコンクラブの発足は1981年3月15日である。
- 8・日本マイコンクラブが京都マイコンクラブに名称が変わったのは1981年1月である。
- 9・日本マイコンクラブ京都支部第一回マイコンコンテストは昭和58年3月である。
- 10・そのコンテスト、競馬予想で京都支部賞をとったのは 円口・岩井・加藤 氏である。

全問正解者には景品を差し上げます。編集部 大塚まで